



東京都美術館 × 東京藝術大学 とびらプロジェクト

「ライぶらり」は「とびラー」のアイデアから生まれました。

「ライぶらり」は東京都美術館と東京藝術大学の連携事業「とびらプロジェクト」に所属するアート・コミュニケーター(愛称:とびラー)によって編集されています。

「とびらプロジェクト」とは、美術館にあったらいいなと思える活動を、広く一般から募集したとびラーと、学芸員や大学教員がフラットな立場で考え実行するプロジェクトです。とびラーの活動はボランティアですが、学芸員や大学教員のサポートではありません。美術館から生まれる新しい暮らしの形、アート・コミュニティをつくりあげるプレーヤーとして活躍する人々です。世代や職種を越えて集まったとびラーが生み出す様々な活動によって、来館した多くの人々の美術館での体験がより深く、充実したものとなることを目指しています。

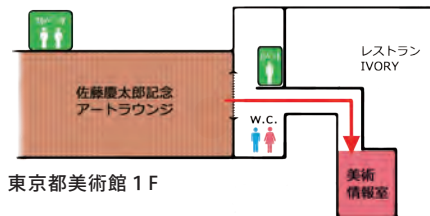
とびラーの活動について更に詳しい情報はウェブ・サイトをご覧ください。

とびらプロジェクト 検索 <http://tobira-project.info/>



< 美術情報室について >

美術情報室の資料は、どなたでも自由に閲覧することができますが、貸出は行っておりません。詳しいご利用方法については、別紙「ご利用案内」をご覧ください。



ライぶらり vol. 5

「ルーヴル美術館展」編

2013年8月30日

発行：とびらプロジェクト

編集：とびラー（齋藤学、植田清一、吉川貴子、筒井彩、小野寺伸二、神谷真規子、佐藤史、大原彩子）

「ライぶらり」は東京都美術館のアート・コミュニケーター（愛称：とびラー）がお贈りする不定期発行の情報紙です。



美術情報室で
アートを読もう

東京都美術館の1階に
美術情報室という図書室があるのをご存知でしょうか？

落ち着いた雰囲気の中で、本を楽しむことができます。

東京都美術館に関連した
書籍を紹介する情報紙



LOUVRE
ルーヴル美術館展編
2013年7月20日(土)~9月23日(月)

おすすめ書籍一覧



「『地中海』を読む」

ウォーラーズテイン, 網野善彦, 川勝平太,
榊原英資, 山内昌之ほか (著), 1999年

本展覧会のテーマである地中海をより深く知る上で欠かせないのが、ブローデルの著書『地中海』。でも超大作なので、まず入門編としておすすめなのがこちら！『地中海』への思いが、様々な分野の視点から語られています。地中海愛がほとぼしる一冊です。興味をもった方は、本家『地中海』にもチャレンジしてみましょう！

地中海愛度 ★★★
展覧会関連度度 ★★★☆
読みやすさ度 ★★★



「ルーヴル美術館所蔵 古代エジプト展」

名古屋市博物館, NHK, NHKプロモーション (編), 2005年

2005年に開催された同名展覧会の図録。高さ63センチのフィンクス、スカラベがデザインされた胸飾り、カバの小像などの写真だけではなく、それぞれの解説も充実しています。パリの街で見ることができる「エジプト」のガイドや、「死者の書」は歴史上最初の漫画であると主張するコラムもあり、読んで楽しい図録です。

「へえ〜」な話題度 ★★★
ルーヴルに行きたい度 ★★★☆
エジプトに行きたい度 ★☆☆



「ギリシア彫刻の見方」

L・クルツィウス (著), 小竹澄栄 (訳), 2007年

六つのギリシア彫刻作品を取り上げた本書。ギリシア神話に基づくテーマを解説すると共に、作品の持つ造形的な魅力を言葉にし、様々な時代の芸術に例えつつ読者をひきこみます。読後は、まるで目の前で作品を鑑賞しながら著者と語り合ったような、静かな愉しみがじんわりと残ります。

わかりやすさ度 ★★★☆
描写の臨場感たっぷり度 ★★★☆
彫刻を学べる度 ★★★☆

「ライぶらり」で掲載されているオススメ書籍は、全て東京都美術館内
1F 美術情報室で閲覧が可能です。ぜひお気軽に足をお運びください。



「図説 ヨーロッパ歴史百科 系譜から見たヨーロッパ文明の歴史」

ピエール・ヴィダル＝ナケ (監), 樺山紘 (監訳), 2007年

ルーヴル・・・フランス・・・ヨーロッパ。ヨーロッパって何だろう！？そんな疑問を歴史面から援護射撃！重量感ある文章で欧州各国の歩みを学べ、多数掲載された美術品の数々が目も喜ばせませす。読後、本の中の小さな美術品に、何千年もの歴史を投影できるかも！？ルーヴルとあなたを強く結びつけてくれる本です。

持ち歩ける度 ☆☆☆
読後人に話したくなる度 ★★★☆
歴史ロマン度 ★★★



「ルーヴル美術館展 19世紀フランス絵画 新古典主義からロマン主義へ」

ルーヴル美術館ほか (編), 2005年

2005年に開催された同名展覧会の図録。迫力ある表紙は新古典主義を代表する画家ジャン＝オーギュスト・ドミニク・アングルの《トルコ風呂》。歴史画、動物画、肖像画などにジャンルに分けられ、日仏語解説付きで収録されています。19世紀前半フランス絵画を詳しく魅せる、ルーヴルファン必読の書！

ルーヴルマニア度 ★★★
気分はフランス！度 ★★★☆
図録を買いたくなる度 ★★★



「一日で鑑賞するルーヴル美術館」

小池寿子, 芸術新潮編集部 (著), 2006年

ルーヴル美術館で何を見たら良いのか分からない！と迷った経験（あるいはそう心配した経験）、ありませんか？本書は限られた時間で効率よく鑑賞できるように、独自の視点で各部門から厳選された美術品88点を一挙紹介！美術館で働く人の、お仕事「裏」話も掲載されています。これを読めば世界の美の殿堂がいつもより少し身近に感じられるかも。

写真充実度 ★★★
お役立ち度 ★★★☆
ルーヴルに行きたい度 ★★★